

第7章 新たな環境活動基盤の整備

(48) 滋賀の環境自治を推進する委員会（環境自治委員会）の申立案件とその審査結果

	受付日	該当する 県の施策	環境保全に関し県に求める内容	審査結果 通知日	審査結果概要
第1号案件	平成8年 7月25日	琵琶湖文化 館「巻き堤」 建設工事	「巻き堤」の建設を中止し、風力水車等他の方法による水質浄化策を計画するよう求める。 ※最終的な申立ては巻き堤建設の中止に変更。	平成9年 7月3日	「琵琶湖文化館に係る水位低下等に対する施策としては、現在立てられている巻き堤計画を見直し、この計画以外の方策を検討すること」を勧告。
第2号案件	平成8年 8月7日	水稻病虫害 航空防除事 業への指導	農薬空中散布現場の緊急調査と国・県の要綱通達を遵守するよう散布者の適正指導を求める。	平成9年 2月26日	「水稻病虫害防除について、航空機を利用して行う方法から、より環境に配慮した方法への転換をその事業主体に対して指導すること」を勧告。
第3号案件	平成8年 9月19日	保安林解除 手続き等	甲西町が実施する湖国十二坊の森整備事業に係わる保安林解除申請と県自然環境保全協定についての県の指導を要望する。	平成8年 11月25日	1. 保安林解除申請の農林水産大臣への知事の意見及び進達に関する申し立てについては、実質的な審査を行わない。なお、保安林解除申請があった場合の進達に係る適正な審査・調査を知事に要望。2. 自然保護協定の内容の適正な指導に関する申し立てについては、協定内容が遵守されるよう、適正な指導を知事に要望。
第4号案件	平成9年 5月23日	産業廃棄物 処理事業の 指導監督	山東町に位置する産業廃棄物最終処分場に係る許可業者の違法な行為に対して県の許可条件の範囲で適正に行われるよう行政指導を求める。	平成11年 3月26日	「申し立てのあった産業廃棄物最終処分場について、当該処分場に係る廃棄物の流出防止および埋設された廃棄物の品目確認のための措置をとることを求めます。また、定期的に場内および周辺の水質監視調査を実施するとともに、必要な場合は、水質保全のための措置を検討することを併せて求めます。」を勧告。
第5号案件	平成9年 6月23日	三面張りによる 流路工事	今津町に滋賀県が行おうとしている谷止め構造物の下流のコンクリートの三面張りによる流路工事を行わないよう勧告を求める。	平成9年 11月17日	本件流路工の実施については、勧告は行わないこととする。（附帯意見）側壁上部と床固工については周辺の景観と調和するよう要望（通知書）県民参加がより一層図られるよう要望
第6号案件	平成12年 6月30日	産業廃棄物 最終処分場 の指導監督	県環境事業公社の甲賀町神藤木での産業廃棄物埋立場について、水質、生物等の調査、公表等を求める。	平成13年 1月26日	本件については、勧告を行わないこととする。
第7号案件	平成13年 11月15日	産業廃棄物 焼却施設の 指導監督等	草津市に所在する産業廃棄物焼却施設および処理業者の業務停止命令などの行政命令等を行うこと、周辺土壌のダイオキシン類調査を行うことを求める。	平成14年 6月7日	本件については、勧告を行わないこととする。
第8号案件	平成15年 7月29日	産業廃棄物 最終処分場 の指導監督	県環境事業公社の甲賀町神藤木での産業廃棄物埋立場について、計画を許可しないよう審査を求める。	平成15年 10月9日	本件については、申立てを却下する。

(49) 森林センターの研究

(1) ウツクシマツの遺伝子保存に関する研究（昭和61～平成23年度）

天然記念物のウツクシマツが、昭和50年（1975年）頃より、松くい虫の加害によって枯死し減少していることから、遺伝子の保存と増殖を図るため、遺伝様式を解明するとともに、ウツクシマツに松くい虫抵抗性を導入できるよう研究を行っています。自生地より播種して育てた苗木（F 1）におけるウツクシマツの出現率は50%であり、そのF 1間の人工交配によりウツクシマツの形態はメンデル則に基づく劣性遺伝であることが明らかになりました。また、抵抗性アカマツとウツクシマツの交配種は、形はウツクシマツにならないものの、ウツクシマツの遺伝子と松くい虫抵抗性を持つことが確認されました。平成13年度から松くい虫抵抗性を持つウツクシマツを作出すべく交配育種を開始しました。平成18年度からは交配種子から育てた苗木の抵抗性を調査します。

(2) 森林づくりが琵琶湖に与える影響調査（平成18～23年度）

琵琶湖流域の森林が、琵琶湖に対してどのような水源かん養機能を有しているか、科学的根拠に基づき定量的に明らかにしていきます。さらに、琵琶湖流域の森林に対して行う主伐、間伐、里山整備などの森林づくりが、森林生態系や水源かん養機能にどのような影響を与えるか、科学的に予測できるシステムを構築し、さまざまな森林施業を想定したシミュレーションを行い、琵琶湖の水環境の面から森林施業を評価しようとしています。

この研究は、これまで行ってきた「森林の水環境保全機能に関する研究」（平成10年度～）と「森林と琵琶湖の水源との関わりの調査研究」（平成15年度～）の成果をもとに研究内容を1本化し、平成18年度から琵琶湖森林づくり県民税を用いて推進します。

(3) ニホンジカによる造林木等被害防除技術の確立（平成17～19年度）

幼齢から壮齢にいたる造林木へのニホンジカによる被害は、近年、激増しています。地域ではいろいろな防除技術が実施されていますが、被害対策にかかる経費のことも考えると、経費も少なく被害を軽減させる方法を改めて考える必要があります。

このため、従来より地域に伝わる防除技術の問題点を検討するとともに、新しい技術を組み合わせて総合的な被害防除方法を確立することを目的に調査研究を進めています。

(4) 環境林植生経年調査（平成18～20年度）

琵琶湖森林づくり基本計画が策定されたことにより、平成18年度から強度間伐を進める環境林整備事業が実施されます。強度間伐は滋賀県では新しい取り組みであり、強度間伐実施後の森林への影響、効果については不明な点が多くあります。

強度間伐実施後の経年変化を考える場合、間伐実施→林内照度が高くなる→高木性広葉樹の侵入→針広混交林化、というモデルが期待されています。しかし、近年の事例報告では、高木性広葉樹の侵入→針広混交林化、といったプロセスをたどらないものも散見されます。また、造林木自体へも影響が出るかもしれません。これらの問題に対処するための調査を開始します。